
爆発。

宇ノ鹿 すい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
爆発。

【Nコード】
N4634N

【作者名】
宇ノ鹿 すい

【あらすじ】
ああああああああああああああ。

私たちはお互いに見合って何も話さずに数時間向き合ったまま身動きをとらずに存在してみるということをしてみるべきだ。

その時にお互いの顔を見て、何か感じるかもしれないし、もしかしたら何も感じないかもしれない、つまり、無意味かもしれない。だけど、私たちは数時間向き合ったまま身動きをとらずに存在してみるということをしてみるべきだ。

私たちはいつでも生きていくということをしてみるべきだ。確信を得られるように励むためだけに存在しているべきだ、それが難しいと思ったとしても生きるために心を爆発させるべきだ。私たちは何時でも心を爆発させるべきだ。爆発させるのが疲れたときはまた違うことを考えるべきだ。私たちは静かにお互いに見合って何も話さずに数時間向き合ったまま身動きをとらずに存在してみるということをしてみるべきだ。

己の欲望に身を任すときに必ず人と繋がりたいと願うべきだ。人と繋がっていたいと願うべきだ。そのために心を爆発させるべきだ。私たちは恥を感じながら心を爆発させるべきだ。疲れたときには心を穏やかにして川に流されて石とぶつかってみるべきだ。その時に大きく心で爆発してみるべきだ。言葉が出てなくても、あなたの起爆剤を起爆させるべきだ？

私たちは起爆しよう。起爆した瞬間から爆発の煙が失われるその時まで、私たちは心を心するべきだ。私たちに世界でもっとも大切にされるべきは心だ。心という安らぎを身体で守っていつか爆発させるべきだ。その時に苦痛を伴ってしまうときもある。

安らぎ安らぎ安らぎ。

毎日を面白おかしく愉快なものにするべきだ。腹を抱えて人と握

手でもなんでもすればいい。徹底的にお互いに罵詈雑言を浴びせてみてもいい。人を好き好き好き好き十分間言い続けたっていい。心を爆発させるべきだ。

人の心をばくはつさせるべきだ。

あつははと肩を掴め。

あなたの肩を掴め。

私はあなたの肩を掴まないかもしれない。

殴るかもしれない。それは、痛い。

申し訳ないと謝るかもしれない。

だから殴るのはやめる。

殴ったりしない殺したりしない馬鹿にしたりしない犯したりしない嘲笑ったりしない

でも逃げ出すかもしれないその時はごめんなさい。

だけど今この瞬間頭をおかしくして口酸っぱく何度も繰り返すことで心を爆発させたいと試みていることを、続ける。

人と繋がるのが恐ろしいことを爆発させるほどに。

心は爆発させるべきだと思う。

特に何かこの心を爆発させるという説を有力にさせるような出来事もなければ説得力のある論理的根拠をあなたにもたらすことも出来ないが、それでも繰り返し言葉をつむぐということが物語を生み出すきっかけになるのならばそれは大切だと思い、結果として心が大切にされるのならば人はそれに喜びを感じるだろう。また明日生きていこうと感ずることが出来るのではないだろうか。タイピングを素早く行えば人は人の思った心を文字にすぐさま表すことが出来る、心がそれだとかどうだとかそんな根拠はないし、少しも練りこまれていないから見られた文章にもならない、だからなんなん

だ、だからなんなのか、はちつともわからない、けれどもこうやって打ち続けるとテンションがあがっているというならば、それはやはり続けるべきではないかと感じるから文章をあなたも私も尽き果てるまで打ち続けよう？

何いつてんだかわからなくなってきたので、閑話休題、と行きたいところだが。

結局、字数稼ぎにしかなくてないんじゃないの？ 意味ある文章か、意味無い文章かと尋ねられたら、意味無い文章と答えたくなるようなこの文章。

わけわかめ。

心を爆発させるべき、だと、思う。
確信はもはや薄れてきたけれども。

やはり締めくくる。

心は爆発させるべきだと思う。私は私の幸せになるために生きていきます。

それがよいことだと思っているからそうするのです。

文章も、その一部なのでした。よいことの一部なのでした。

だから文章を打つことで爆発させます。

これから先、そういうものを作るように今のうちから爆発の練習をしているのです。

タイピングが速くなったおかげで思ったこととそれが文章になることという関係も近まってきましたしね。

だから、爆発しました。

みなさんはどうなるのでしょうか。私は爆発爆発爆発。
これで、終わり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4634n/>

爆発。

2011年11月13日11時14分発行